

移民政策専門家会合（SOPEMI, OECD）参加報告

10月29日から31日にかけてフランス、パリにある OECD 本部で「移民専門家会合（SOPEMI）」が開催され、日本政府を代表して国立社会保障・人口問題研究所からは是川が参加した。同会合は、OECD の雇用労働社会問題委員会（ELSAC）の下に設置され、毎年6月頃に開催される移民政策作業部会（WPM）と並んで、毎年秋頃に行われるものであり、OECD 加盟国各国の移民政策に関する専門家が一堂に会し、各国の最新の情報、意見交換を行うことを目的としたものである。

会合は3日間の日程で行われ、労働、経済移民から始まり、技能実習生や季節労働者などの一時的移民、家族移民、留学生、非正規移民、難民、及び難民の社会統合、並びに帰化といった論点について、2、3か国の専門家から短いプレゼンテーションが行われた後、自由な討議が行われた。今回の会合最終日には高齢者の退職後の国際移動についてのセッションが行われ、是川も日本の高齢者の海外移住について報告を行った。

また、3日目の午後には移民政策専門家会合とは別に移民に対する各国の魅力度指標（attractiveness index）の開発にあたっての検討会が開催され、是川も専門家として同会合に参加し、意見交換を行った。

（是川 タ 記）

特別講演会（David Swanson 名誉教授）

去る2018年10月31日（水）、国立社会保障・人口問題研究所会議室において、デービッド・スワンソン名誉教授（カルフォルニア大学リバーサイド校名誉教授、ワシントン大学人口学・生態学研究センター研究員）による特別講演会が行われた。講演は「コーホート変化率とその応用」という題で行われ、主に4つのテーマが取り上げられた。具体的には、1. 回帰分析を利用した地域人口推計、2. ハリケーン・カトリーナが地域人口に与えた影響、3. 安定人口の計算、4. ハワイの人口の遡及推計、という4テーマにつき、コーホート変化率を用いた分析法とその結果が紹介された。90枚以上のスライドが用意された今回の講演は、日本語の通訳つきだったこともあり、休憩を含め2時間近くに及んだ。途中、10月終わりの西日が差し込む会場で室温が上昇し、演者が休憩を提案する場面もあったが、全体としてはおおむね盛会であった。残念ながら質疑応答の時間はほとんどなかったが、今回の講演会は地域人口研究の関係者にとって諸外国の地域人口分析に接する貴重な機会となったと思われる。

（清水昌人 記）

第一回日本発デモグラファー会議

2018年11月9日～同年11月10日、東京大学駒場キャンパスにて「第一回日本発デモグラファー会議」が開催された。主催者は北海道大学の高田壯則教授、教授は数理生態学者であり報告者に博士の学位を授けた恩師でもある。デモグラファーと言っても主催者の専門がそうであるように報告者の多くは生態学者である。ヒトの人口をテーマとしたのはわずか1名、但し今後この人数を増やす予定だそう。主題は構造化人口モデル、人口学に属する人間にとってはレスリー行列がその範疇にあたる。構造化人口モデルの中でも特に前述のレスリー行列を含む推移行列モデルにスポット当てたこの会議では、観測データに対する固有値問題の応用から様々なヒトを含む動植物の趨勢、生活史進化などが議論された。また、ここ数年でこうした動植物の行列モデルがデータベース化され、誰でもアクセス出